

5月の研修会に参加して...

- ご利用者の40～44歳から歯の健康が維持できず歯周病や虫歯になる事が多い。
- 歯磨き自体困難な方もいるし、歯周病や虫歯が重症化しても伝えることが困難。結果として、腫れが酷くなったり、食べられなくなったりする。口腔の汚れは脳卒中やインフルエンザにもかかりやすくなる。
→そのような状態にさせない、また早期発見することで口腔内の健康を守ることが出来る。
- ご利用者の辛さの情報や気づきを関係機関で共有することでして利用者の健康維持に努める。



歯磨きが困難な方への対応

- 前歯2本分くらいから初めて慣れて行ってもらおう。
- 力を入れず、1,2本ずつ磨く。歯ブラシを当てる角度は歯に対して45度。円を書くように磨くと良い。
- 毛先は山切カットの物は介助に使用するの難しい。
ストレートか段差状のものがやりやすい。
- 介護者は歯ブラシを2本持っておくと介助しやすい。
(磨く用と、本人が嚙んだりできる用)
- 3食食後に出来ることが望ましいが、
難しい方でも最悪寝る前の歯磨きした方がいい。
→寝ている間はよだれが減るので歯周病菌が繁殖しやすいから。

- 歯科医師が考案した歯にいいお菓子もあるので、リワード等で使ってみるのもあり。



他にもキャンディや
ゼリーがありました。